

令和 6 年 10 月 18日

松阪市議会議長 中島 清晴 様

松阪市議会 蒼水会

沖 和哉

蒼水会 視察実施報告書



会派視察に参加いたしましたので、下記のとおり報告いたします。

日 時 令和 6 年 10 月 9 日(水)

会 場 幕張メッセ Hall 9-11 「地方自治情報化推進フェア 2024」

テーマ ① 生成 AI 活用に向けて自治体はどう取組むべきか

講 師 株式会社 FIXER 代表取締役社長 松岡 清一 氏

テーマ ② 中小規模自治体における生成 AI 活用検討の軌跡を辿る

講 師 熊本県あさぎり町 デジタル政策審議監 長沼 宏季 氏

テーマ ③ 農業×デジタル匠(熟練農家)の技術を次世代へ!

講 師 佐賀県 農林水産部園芸農産課 技術監 莊山 敦史 氏

パネルディスカッション 自治体 DX が目指すもの

モデレーター 株式会社日本総合研究所 調査部主任研究員 野村 敦子 氏

パネリスト 株式会社グラファール 代表取締役 石井 大地 氏

山形県 西川町長 菅野 大志 氏

(一社)ICT まちづくり共通プラットフォーム推進機構 専務理事・事務局長 羽鳥 大輔 氏

(一社)日本デジタルトランス フォーメーション推進協会 代表理事 森戸 裕一 氏

参加者 蒼水会 : 沖 和哉、野呂 一平

令和 6 年 10 月 9 日(水)

1. 生成 AI 活用に向けて自治体はどう取組むべきか

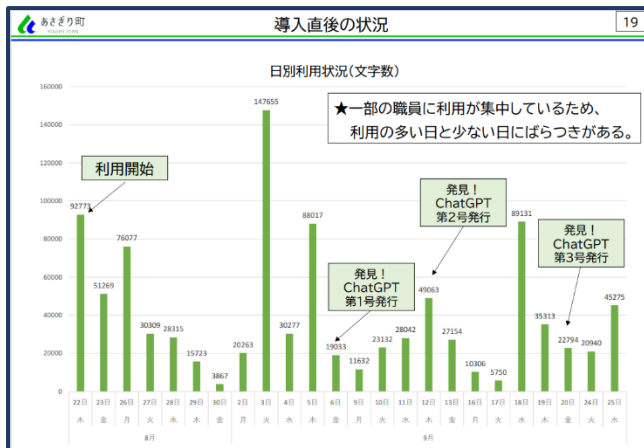
自治体 DX を進めるにあたり、様々なデータを分析し、活用する手法である AI、デジタルデータを分析・利活用するスキルは、とても重要なものとなっている。自治体において、どのように生成 AI を活用していけばよいのか。自治体業務が増え続ける一方で、職員数には限りがあり、人件費も抑制していかななくてはならない中で、生成 AI を適切に活かすことができるとすれば、膨大な業務の棚卸しや基礎調査、過去の事例や各種データ分析などを瞬時にこなしてくれる助手であり、コンサルタントを採用することとほぼ同義となる。当然、自治体行政において最大の課題は様々な業務において発生し、保管しなければならない個人情報の厳守であり、生成 AI によるデータの読み込みと完全に隔離した状態で運用しなければならない。セキュリティの確保は至上命題であり、また、LGWAN という閉鎖空間での生成 AI 運用において、またインターネット上にあふれる有用データの活用において、いかにして安全を担保するかが最大の課題でありハードルであろうとも言える。



生成 AI は ChatGPT(OpenAI 社)、Gemini(Google 社)、Claude(Anthropic 社)等、世界有数の企業が開発しているが、それぞれに得意不得意もあり、日本語脳としての性能をどこに求めるのか、どのような分野においてどの AI をどう活用するのか、といった判断が必要となる。世界の大手ベンダーや日本企業も含め、さまざまな活用が実証研究され、市場に展開されている中で、上述のセキュリティ問題と合わせて慎重かつ柔軟な判断が求められる。

2. 中小規模自治体における生成 AI 活用検討の軌跡を辿る

熊本県あさぎり町は、職員の業務負担軽減を図るため、生成 AI の業務利用に向けた検討を行うプロジェクトチームを職員有志により組織。人員・予算が限られているなかで、庁内のルール整備や試験導入による活用方策の検討・効果測定をおこなった。あさぎり町での生成 AI 導入までの過程と今後の取組みについて。



あさぎり町 普及の取組 17

○当面の目標を「アクティブユーザーの拡大」と設定して、PTで普及活動を展開。

➢ 「(ほぼ週刊)発見！ChatGPT」の発行
…使用履歴から優良事例を選出し、プロンプトとともに配布＆テンプレート登録。

➢ 全課宛の作業依頼と同時に、利用できるプロンプトのテンプレートを配布
➢ 年内には庁内向けの勉強会を実施予定

「PICKUP アイデア」利用促進を図る取組 ▶ 「発見！ChatGPT」の発行

3. 農業×デジタル匠(熟練農家)の技術を次世代へ!

佐賀県は、全国トップレベルの施設キュウリの収穫量を誇る匠(熟練農家)の勘や経験に基づく技術を、動画や画像、テキストデータでデジタル化した学習システムを開発している。新たな担い手が短期間で匠の技術を習得し、生産性向上を実現した取組について。

さが国芸888運動の展開

目指す姿

- 園芸作物を生産・販売し、**稼ぐ農業**を実践している農業者(経営体)が増えている。
- また、それを目指し新たな担い手が確保され、産地が拡大・創出される**好循環**が生まれている。

その延長線上に
園芸農業の産出額888億円
(H29:629億円 → R10:888億円)

新たな担い手の確保
稼ぐ農業の実践
所得の向上
好循環

なぜ、システム開発に取り組んだのか

農家の高齢化

- 高齢化にともなう農家の減少
- 熟練農家の優れた技術(匠の技)の喪失
- 技術の低下、
＝安全・安心な農産物の供給をまかなえない

技術を伝えることが難しい

- 匠の技は経験や勘に基づくものが多い
- 習得し、継承するためには 相当の期間が必要

国内の年次高齢化率(2020年)

60代以上が約3/4

デジタルによる解決策

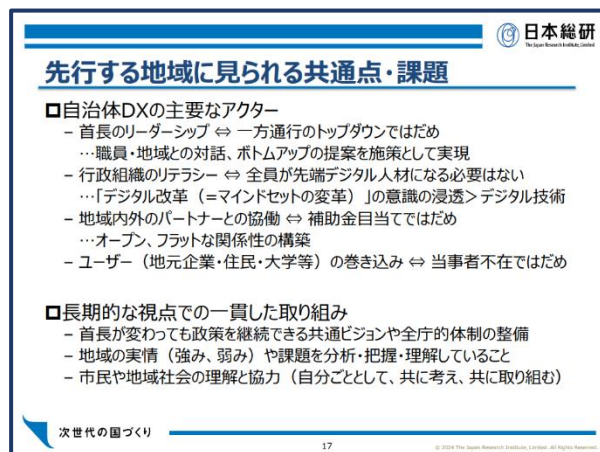
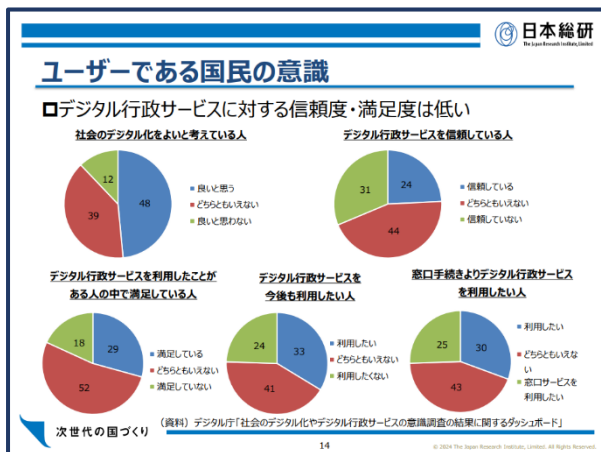
「匠の技」学習支援システムの開発

全国トップレベルの収量を誇るきゅうり農家の技術をデジタル(画像や動画)で学べる学習システム

「PICKUP アイデア」農業へのデジタル技術の導入 ▶ 「匠の技」学習支援システムの開発

4. パネルディスカッション 自治体 DX が目指すもの

自治体 DX やデジタル化の推進は、自治体の中だけでなく、自治体と地域社会との関係にも大きな変化をもたらし、地域住民サービスを考える上でも、欠かせない要素となっている。自治体 DX を進めるための課題及びその解決策や官民連携についてのディスカッション。



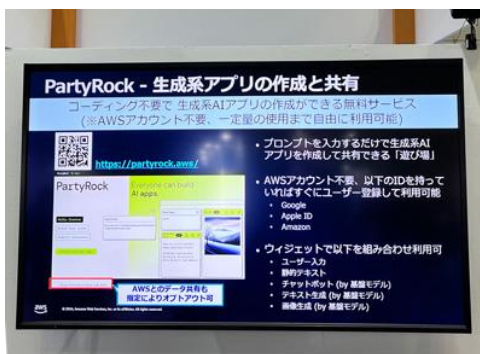
《PICKUP》国民意識と共通課題の醸成

5. 企業展示

HITACHI 意思決定を目的とした AI によるシミュレーション技術

概要: AI を活用した未来シナリオ分析と政策シミュレーションの取組。

現在実証実験中であり、国や自治体が目指す未来像に向けてシミュレーションを行うことで、どのタイミングでどのような社会情勢や社会構造になり得るかといった分岐点を設定。分岐点までにどのような施策や事業展開を行うことで、どのような未来の選択が可能となるかを導き出す検証。



【その他】

Google、AWS、Oracle、Gcom ホールディングス株式会社、日立システムズ など

6. 所感

自治体デジタルトランスフォーメーション(DX)や生成 AI の活用はもはや必然である。地域社会の発展と住民サービスの向上に欠かせない要素となっている。住民がオンラインで簡便に申請や手続きを行えることにより、窓口での待ち時間が削減され、住民の利便性が向上し、ペーパーレス化やリモートワークの推進により、業務の柔軟性が向上し、職員の働き方改革も進展している。

更にこれからへ向けて、住民相談対応の自動化などが進み、住民からの問い合わせや相談に24時間対応が可能となる。生成 AI を活用したデータ分析により、地域の課題やニーズを的確に把握し、より効果的な政策立案が実現していけば、交通渋滞の解消や防災対策の強化など具体的な施策に応用されていくことであろう。自治体 DX と生成 AI の活用は、地域社会の発展と住民サービスの向上に大きく寄与し、今後もさらなる技術革新を取り入れ、住民の皆様にとってより良い自治体づくりとなることに間違いない。

その中でも、HITACHI は、意思決定を目的とした AI シミュレーション技術に注力しており、この技術は、将来の可能性を予測し、政策の効果を評価するために利用される。AI を使って未来のシナリオを分析し、政策のシミュレーションを行い、高度なアルゴリズムと豊富なデータを活用し、正確な予測と評価を行うことができる。政府や多様な企業と協力し、様々な政策や戦略のシミュレーションを実施しており、その成果として、効率的な資源配分や効果的な政策立案が可能となる。この技術は今後さらに進化し、社会の複雑な問題を解決するツールとして期待され、環境問題や経済政策など、多岐にわたる分野での活用が見込まれる。

政策シミュレーションの拡大により、政府や自治体において、環境政策、都市計画、災害対策などの幅広い分野で AI シミュレーション技術が活用されると、気候変動対策やエネルギー政策の推進、持続可能な社会の実現にも貢献でき、企業に対するマーケティング戦略や供給チェーン管理のシミュレーションを提供し、効率的な経営戦略を策定し、リスクを最小化することも可能となるという。

教育分野への応用としても、学校において、未来シナリオ分析をカリキュラムの一部として導入し、学生が現実の問題に対するシミュレーションを通じて、より実践的な学びを得ることができる。教師の経験や勘に頼ったある種の職人的な進路指導ではなく、データ分析に基づいた客観的な進路指導やキャリア形成ができるようになるのではないかと感じた。

乗り遅れないこと、失敗を恐れずにやること。先例踏襲が基本となる自治体行政ではあるが、同じことの繰り返しや単なる継続だけであれば、それは停滞どころか衰退しか生まない。松阪市では ChatGPT を活用した業務運営に取り掛かってはいるが、ChatGPT を使えばいいという単純なものではなく、生成 AI を使って何をするのかが最も重要である。そもそも、日本で 1 番有名であろう ChatGPT ではあるが、上述のとおり、世の中には他にも高性能な生成 AI は存在するわけであり、何をどのように活用していくかを適切に支援し、アドバイスしてくれる有能な代理店をいかにして見つけるかが重要だと感じた。歴史と伝統を誇るだけでなく、更なる DX と生成 AI の活用により、発展を遂げていくための後押しと多角的な政策提言に取り組んでいきたい。

